

【国家試験受験能力到達度試験】 予約制のお知らせとご案内

- 去年 1 月に初めて行われた「外国人介護福祉士候補者」国家試験合格者は、95 名中わずか 36 名でした。その中で、弊社が実施して参りました【国家試験受験能力到達度試験】の参加者の占める割合は 52.7%に達し、合格者数は、36 名中 19 名にも上りました。
第二回目の今年 1 月に行われた国家試験については、この能力到達度試験(P2 参照)の参加者の 90%がすでに、国家試験合格能力に達しています。
- 合格率が非常に高いために、これらの実績が評価されて、介護施設ならびに病院からの参加申し込みが多くなって参りました。2 月現在では、今年 12 月に受け入れ予定の施設からも、はやばやと、この能力到達度試験に参加の意志を表明されている施設が多くあります。
- しかしながら、この現状を考えて弊社としては、この能力到達度試験の参加者に対する【教育効果と指導の質を落さない】ために、残念ながら、定員枠を設けざるを得なくなりました。その定員枠は下記の通りとさせていただきます。
※ 介護分野での定員枠は、60 名まで。 ※ 看護分野での定員枠は、40 名まで。
- 上記の定員枠を設けざるを得なくなりましたので、関係者の方々には、このことを十分ご理解頂きご了承下さい。なお、予約を御希望の方には、先着順位でお受け致しますが、定員となり次第、受付を締め切らせて頂きますので、ご理解下さいますようお願い申し上げます。
- 予約手付金を支払った予約者には、受講開始前でも「教育に関する相談を受けること」ができますので、確実に国家試験合格に向けての計画を立てられます。また、受験者の能力に合わせて個人指導の仕方についても相談できますから、「合格への道」がより確実なものとなり、合格確率が高まります。是非、この予約制をご利用下さい。

----- 【国家試験受験能力到達度試験 予約申し込み書】 -----

施設名：	責任者名：
住所：〒	TEL：
	FAX：
	メール：
参加者国籍：	人数：
参加者入職期：	受講開始予定日：
参加費用： @ 190,030 円 × 人	合計 円
予約手付金： @ 40,000 円 × 人	合計 円
【振込先】りそな銀行新宿支店（店番）299（普通口座）3452018 小木 幸子 (振込み手数料は参加者負担)	

- ※ 1、受講開始は、参加費用のうち、予約手付金を引いた残金、150,030 円が振り込まれて確認された後に、「教材一式」と「初回レベル試験問題」ならびに、「学習計画表」、「教材指導書」などを着払いにてご送付致します。
- ※ 2、予約手付金が振り込まれずに、参加予約申し込み書だけの場合には、予約手付金を支払っている施設・病院を優先して、予約者と致しますので、ご了承下さい。

<お問い合わせ先> ことばの研究社 小木まで TEL：03-6317-6009

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年 3 月に発表された外国人介護福祉士国家試験合格者発表で明確に立証されました。 その内容では、受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）が、この受験能力到達度試験を受けた受験者でした。

※ 本試験は、国家試験に対する受験テクニックや言葉の暗記を重視したものではなく、あくまでも専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで【実践力のある要員として育成すること】を目的としています。

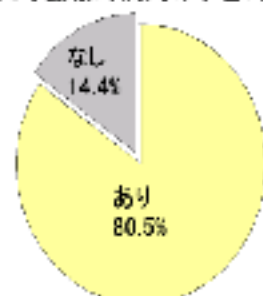
レベル	合格基準と内容	特徴	技能の種類	合格
3 段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域言語能力
2 段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1 段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力
B段階	70 % 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

受け入れ施設の二重負担の実態が明確に！！

社団法人外国人看護師・介護福祉士支援協議会が行った「第四回EPA受け入れ施設及び看護師・介護福祉士候補者調査」に基づき、弊社が月報16号に続き報告します。

1、【勤務時間内学習時間の経済的な負担は3年間で、約1,800時間にも！】

表Ⅰ、勤務時間内の学習時間



勤務時間内に学習時間をとっている施設は、80.5%（表Ⅰ参照）にも達している。表Ⅱの学習時間量では、勤務時間内で学習時間に割いている時間量は、1H～3Hまでの時間量が多く、平均すると1.5H～2Hを学習時間に割いていることが判明した。

表Ⅰと表Ⅱの数値を解析すると、施設の80.5%が1日あたり約2H間の時間を割り、国家試験対策を行っていることが分かる。しかし、月単位に換算すると約50Hに達し、受け入れして国家試験受験までの3年間の学習時間量を積算すると、約1,800Hに上ることが判明した。

（積算根拠：1日2H×25日間＝50H/月 50H×12ヶ月間×3年間＝1,800H）

【具体的な試算では、180万円分も！（時給1,000円）×1,800H＝180万円】

総学習時間量約1,800時間は、全て勤務時間内であり、即ち労働時間内であることを認識する必要がある。さらにこの1,800Hに対して、施設は受験者に給与支払を行い、経済的負担を人件費として含まれていることを十分に認識する必要がある。

そして、受験者全員が国家試験に合格し、労働力として十分な働きをしてくれることがあれば、この負担にも少しは報われる面もあると考えられるが、残念ながら、昨年度の合格者は95名中わずか36名にしか過ぎず、ほとんどの施設は無駄な経費支出を一人当たり、約180万円も支払ったとしか考えられない実績が残っている。

2、【受入れ施設の人的・経済的負担の実態が浮き彫りに！】

表Ⅲでは、施設の関係者が全体の55.8%にも上り、過半数を占めることが判明した。

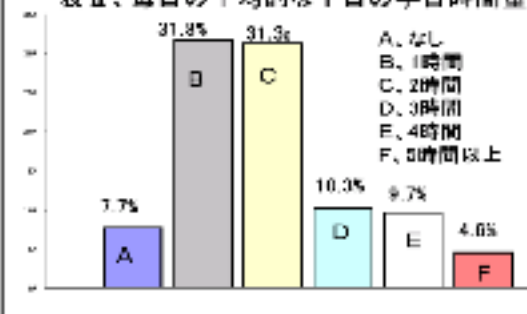
このことは、前述した施設の受験者に対する負担だけではなく、職場の日本人労働力である職員の労働時間にも約1,800Hが割かれていることを表している。当然のことながら、施設の職員にも給与の保障と必要経費の支出が行われているために、施設としては二重の人的・経済的負担を強いられていることが判明した。これを試算すると、時給を1,400円とした場合、252万円分の労働を充当したこととなる。

そして、専門職である介護福祉士の比率が19.8%（表Ⅲ参照）と一番高いことに注目する必要がある。施設では毎日、多忙な職務をこなしている介護福祉士は、受験生対応に平均して毎日2Hを割かざるを得ない実態が生じている状態があることが判明した。

【二重負担の内容が明らかに！】

この結果、受験者に対する経済的負担と職員の負担を金額で表すと、3年間で約432万円となり、1年間では144万円にも達することが判明した。

表Ⅱ、毎日の平均的な平日の学習時間量



さらには、学習支援の内容を解析すると、80.7%が日本語教育とは無関係の人々が支援していることも判明し、その結果、昨年度の合格率が37.8%にしか過ぎなかった。このことは、受け入れ施設にとって二重の経済的負担ならびに、人的負担の大きさを表している。

この試算数字はあくまでも一人当たりであり、複数の受験者を受入れた場合には変動があることは当然だが、多大な二重負担であることは変わらない。

表Ⅲ、学習支援者

職場の管理職	18.6%
職場の医師	0.6%
職場の看護師・介護福祉士	19.8%
職場の教育担当者	16.8%
日本語教師	17.6%
日本語ボランティア	7.7%
国家試験対策専門の教師	7.1%
国家試験対策のボランティア	2.2%
看護・介護系専門学校	1.8%
予備校	0.2%
通信教育	0.4%
友人・知人	5.9%

【考察の総括】

今回の調査結果を見ると、受け入れ施設が異常なほどに経済的そして、人的な負担を背負っていることが浮き彫りとなった。

しかしながら、今後の介護分野での労働力不足は必至となるために、EPA協定に基づく労働力確保は絶対必要な状況と言わざるを得ない。

そのためには極力、施設の経済的・人的負担を軽減する方策を講じない限り、施設側も負担増加のため、外国人雇用を諦めざるを得なくなる。

その結果予測できることは、介護士不足で本来の業務が円滑に営むことができず、施設運営に重大な危機を呼び起こさざるを得なくなってしまうだろう。

1、【問題解決のための具体的な方策】

そこでこれを機会に是非、具体的な対応策を提案したいことを下記に記したい。

第一に、勤務時間内では最小限の国家試験対策時間（1日30分～1時間）に限り、業務の中において、「知識の吸収と言語の習得を実践的に行わせる」こと。

第二に、受験者の【自学能力の向上】を行わせて、職員の労働力割除にならないことを目指し、「自宅学習を中心とした教育体制を作る」こと。

第三に、外国人を特別扱いにせず、日本人と同様に扱い、【郷に入れば郷に従え】の諺通り我が儘や私利私欲の要求などにも応じず、「日本の文化や習慣を修得させ」て、慣れさせる職場環境を作り出し、労働力として確保すること。

第四に、学習時間に対しても給与を支払っていることを強く受験者に認識させて、「日本語学習をすることが義務であること」を明確に伝達すること。

第五に、「合格後も業務ができなければ採用しないことを明言すること」で、受験者の目的意識を明確に方向づけるよう指導すること。そして、合格した後は勝手に帰国することを許さず、「一定の年数は受け入れ施設で働くこと」を強く要求すること。

上記の点を明確に創り出すことで、今後の介護分野における労働力不足に対する解決方法の一助となることと確信している。

2、【受入れ施設の負担を軽減するためには】

また、施設の負担軽減のためには、母国での基礎的な日本語力を養わせて入国させる必要がある。さらには現在、教育効果が上がっていない来日直後のAOTSでの日本語教育の質の向上を強く求める必要がある。そして、事業団による講習会と訪問指導の有り方を再検討して、入職時には「一定の介護業務が実行できる人材」にして入職させるシステムを作れば、施設の二重負担は大幅に軽減されると思われる。

3、【今後の必要な「学習支援金制度」の処置方法】

しかし、それらの方法を厚労省と事業団が実行できない場合には、全国の関係施設が一致協力して、AOTSでの日本語教育や、事業団の訪問指導、全国各地で行われている講習会などの予算を中止させて、その予算を全て、【受け入れ施設に学習支援金として分配し、現場での教育責任の体制を確立すること】も一つの方法である。この方法は、すぐにでも実現できる方法と言える。EPA協定に基づく外国人受け入れ事業は、【全て受け入れ施設のためにあること】を大前提に認識し、早急に改革し直す必要がある。

事業団訪問指導の評価と 国家試験を終えた手ごたえ

事業団の指導員の助言に従ったが、 職員が教えたほうが効果があった！

事業団の指導員に、「受験者二名の日本語力は十分ある」と言われ、最後の一年間は介護専門学校に通学するよう勧められ、それで国家試験対策にするよう指導された。

しかし、専門学校の授業では日本語が受験者には分からず、高い授業料を払って通学させても何ら効果がなかった。施設の職員は、「二名ともに会話力は全く問題ない」と判断していたために、事業団指導員の助言に従ってしまった。

通学させる前までは、施設内で職員が手厚く指導して少しずつではあるが、教育効果があったことを考えると、最後まで職員が手厚く指導したほうが結果的には良かったのではないかと今は思っている。

さらに、今回の国家試験の自己採点をした限り、合格は厳しいということも分かったので、事業団指導員のアドバイスに対して、信頼を持てなくなった。そのために、今後の受け入れは今のところは考えられない。
(東京都・U施設)

何とんでも、日本語力が合否を左右！

① 前年度の試験よりも、今年度のは難しい内容だと感じた。前年度は初めてだったということもあり、「外国人に配慮した内容なのかな」と思ったが、今回の試験は、いろんな模擬試験よりも難しく、日本人も難しかったのではないかと感じた。二名受けたが、自己採点した結果、一名は合格できるのではと期待している。

難しいと言っても、勉強すれば解けるはずだ。何とんでも、決めてはやはり日本語力だと改めて思った。
(茨城県・A施設)

② 二名受けたが二名とも、合格は厳しい。試験問題の読み取りができないことが最大の原因であり、つまってしまうと前に進めず、時間が経ち、延長されても足りなかったという話だった。日本語力の無さが一番の原因で、受験を控えている人もまだいるため、今回の試験で「日本語の重要性」がづくづく分かった。
(青森県・K施設)

国家試験の学習の仕方について、 具体的な助言は何も無い！！

● 事業団の訪問指導については、一般的な情況把握や法人の考え方、地方がどのような取り組みをしながら進めているのか、というようなマネジメント的な面では役に立ったが、現場レベルでの日本語指導や受験対策に関わるような指導の助言は具体的な方法論やアドバイスが無いため、役には立たなかった。

(京都府・V施設)

● 教育指導については、役立つことは無かった。あえて言えば、指導員は受験者に英語を使って、生活面や精神面のサポートをしていたことに対して、非常に矛盾を感じた。

(鹿児島県・S施設)

● 年に一回の訪問なので、何も役には立っていない。日本語教師がいるので、その先生と候補者とがやり取りしているため、事業団の指導員の訪問は必要性がないと感じている。

(千葉県・P施設)

● 訪問指導の面談の際には、「やる気があって勉強にも取り組んでいる」と、候補者は指導員に報告したが、本当は、本人の受験対策はいい加減だった。国家試験も解けなかったという報告を受けたので、本気で試験を受けたとは思えない。
(熊本県・H施設)

③ 自己採点をした結果、今回は四名中二名が合格できるのではないかと期待している。

時間が延長されたことと、振り仮名が振られたことで助けられたようだったが、漢字が読める人は逆に振り仮名が振られると読みにくいと言った。そして、「振り仮名をふられても言葉の意味が分からなければ、意味がない」と言った。
(東京都・T施設)

④ 前回の問題より、今回の問題のほうが難しかった原因は、「読解力」が無かったためとはじめて気がついた。
(徳島県・Y施設)

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】 ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力が身につくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発話方法が学べます。
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□
表裏にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文書に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。
このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。
場面を紹介する文は、外資系の理解と、その言い出し練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥2,550
	「ひらがなのーと」	¥1,800
	「漢字のーと 1」	¥1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥2,550
	「カタカナノート」	¥1,360
	「漢字のーと 2」	¥1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥3,000
※ 送料は別途		

【国家試験受験能力到達度試験】ご参加のおすすめ

【国家試験受験能力到達度試験】は、外国人国家試験受験者を対象とした【言語能力】を段階的に判定できる試験です。第一段階では＜基礎言語能力＞を観る初回レベル～Dレベルまでで、第二段階では＜国家試験受験能力＞を観るEレベルとFレベルです。そして、第三段階では＜国家試験合格能力＞を観る国試1レベル～3レベルの三部構成で実施しています。

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値（月報17号P2参照）を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】チェックと【教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

<受験人数> 名

<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。

<単発受験>

初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @20,000円 × 名 合計金額 円

<継続受験>

初回から全10回（教材費込み） 190,030円 × 名 合計金額 円

★ 教材のおすすめ（詳細は月報16号P6参照）下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊 ひらがなかーど（ ）冊 漢字の一と1（ ）冊

100万人の日本語No.2（ ）冊 ひらがなの一と（ ）冊 漢字ノート2（ ）冊

100万人の日本語No.3（ ）冊 カタカナノート（ ）冊

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田3-2-13 石田ビル303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba__ken@yahoo.co.jp